

大門だより

No. 7
(433号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和2年 10月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

随時更新中!

「響きを重ね合わせて」

副校長 鈴木 竜也

先日の運動会実施に当たっては、天候と校庭のコンディションの関係で1日順延しましたが、保護者の皆様の御理解と御支援を賜り、滞りなく挙行することができました。誠に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の感染防止にもご協力頂きありがとうございました。

低学年はバトンを使って可愛らしくそしてかっこよく踊っていました。練習では2年生が1年生に教えている姿もあり素敵でした。中学年の集団行動では、歩き方や腕の上げ方が揃っている調和の美しさを、フラッグダンスでは夏の青空の爽やかさと太陽の暑さを空間いっぱいに表示してくれました。高学年のエイサー。沖縄の自然や伝統を学ぶ中で、沖縄の人が大切にしてきたものを知り、それを力強く、ダイナミックに表示していました。壮大な演技に感服です。

6年生は様々な制約がある中でも係活動をしてくれました。さすが最高学年らしい立派な姿を見せてくれました。

さて、だいぶ気温も落ち着いてきて、文化を嗜むにはいい季節になってきました。

私はこれまで演奏活動や音楽指導に携わってきたことから、オーケストラについてお話をしたいと思えます。

オーケストラは、その起源や演奏の仕方、発音構造の異なる楽器による合奏です。弦を弓でこすり合わせたり指で弾いたりして鳴らす弦楽器、木製の管（今では金属製のものもあります）にリードや空気の渦による振動を伝えて音を鳴らす木管楽器、金属の管に唇の振動を伝えて音を鳴らす金管楽器、皮や音板を叩いて音を鳴らす打楽器など、様々な音を組み合わせ、響きを重ね合わせて演奏を創り上げます。

日本の学校では吹奏楽や合唱が盛んで、保護者の皆さんの中にも経験された方が多いのではないのでしょうか。「みんなで心を合わせなければいい音楽はできません」、「このように演奏しなさい」等言われた経験がありませんか。

本来音楽はそのような「精神論」や「スパルタ的なもの」ではありません。指揮者は演奏者に対して「私はこのような表現にしたいです」といった演奏の骨格を示します。演奏者はそのためにどのような技術が必要で、どのように奏でたら良いのかを考えたり練習したりして演奏します。だからこそ先に述べた楽器の特徴の違いがあっても、調和のとれた豊かな響きを出すことができるのです。

学校生活の中ではどうでしょうか。走るのが早い子、絵が上手な子、歌が得意な子、また、話しをするのが好きな子、引っ込み思案で静かにしているのが好きな子もいます。様々な個性や性格をもった子供たちで学級や学校を創り上げています。

大人は子供を自分が思う形にはめようとしがちです。個の特性を受容し、それぞれを認め合える学校を目指していきたいです。モラルやマナー、ルールに気を配りつつ、保護者と地域、学校が手を携えて、子供たちが自分の想いや考えを自由に発信し、オーケストラのように響かせていける学校にしていきたいと思えます。